

## 東京の水循環再生に関する共同研究

全体期間

1996.1～1998.3

本文117P～122P

## 1. 目的

都市計画中央審議会の答申「今後の下水道の整備と管理は、いかにあるべきか」によれば、下水道の質的向上をはかる第一の施策として「水循環の再生」が挙げられ、関連部局との密接な連携のもと、水に関わる施策を総合的に整理・構築して施策を実施していくことが望まれている。同様に河川審議会の答申「今後の河川環境のあり方について」においても河川事業における望ましい水循環の形成の必要性が示されている。これらの答申を受け、東京都下水道局と同建設局河川部において、これらの動向にあわせて、都市化の進んだ「神田川流域」をモデル地区として、神田川における水循環の改善と水質の保全及び水辺空間の整備を図る上での課題を把握し、既往の調査研究などの成果をふまえ、水循環再生の実施すべき施策と効果的な対策のたて方を明らかにして、「神田川流域における水循環再生構想」を策定することとなった。

本共同研究では、主として神田川流域における既存調査資料を整理し、神田川流域における水循環をモデル的に把握し、神田川流域の在るべき姿を検討し、現状の課題の分析・抽出し、在るべき姿に近づけるための施策の検討・提案を行うことを目的とする。

## 2. 内容

平成8年度は、神田川流域を5ブロックに分割し、各ブロックでの水循環再生構想の検討、アクションプログラムの検討を中心に行い、併せて、基本事項の整理結果の検討、GIS（地理情報システム）によるシステム化の検討を行った。

## 2.1 基本事項の整理結果の検討

水収支モデルの向上に向けた自然系水収支、人工系水収支に関するデータの整理を行い、神田川流域全体、5ブロックでの水収支図を作成した。

## 2.2 水循環再生構想の検討

水循環再生構想の検討においては、神田川流域の現状、住民の要望、水収支図、各ブロックの課題等を踏まえ、基本テーマを設定し、流域・河川に区別して目標イメージの設定を行った。

## 2.3 アクションプログラムの提案

水循環再生のための具体的な施策について整理を行い、実現性の高い施策案について整理を行った。施策は水循環再生のための基本テーマに対し、具体的な以下の対策目標を細分化して、目標達成のための施策案を整理した。施策案の中で下水道事業として実現性のある施策案について検討を行った。

## 2.4 GISによるシステム化の検討

水循環再生構想の検討に必要なデータの属性、区分、収集間隔等を整理するとともに、現在、東京都に導入されているGISシステム（都市計画地図情報システム、下水道台帳システム等）の運用事例の調査を行い、システム化に向けた検討を行った。

共同研究者：東京都

財団法人 下水道新技術推進機構

研究担当者：前田 正博、中田 穂積、石川 泰裕、森岡 真一、久保田 勝一

キーワード

水循環、神田川、下水道、水循環再生